

倉吉市総合計画審議会 第3回産業振興部会

1 日時 平成23年2月2日（水）9：30～11：50

2 場所 市役所第2会議室

3 出席者 栗原委員（部会長）、吉田委員（副会長）、福井委員、
藤井由美子委員、藤井啓介委員、福田委員、岩本委員、
藤井忠篤委員

<欠席> 山田委員、豊田委員

事務局 総合政策室 森室長、向井企画員、木藤主任

産業部 山根産業部長

農林課 萬場次長

農業委員会 太田事務局長

9:30

1 開会

2 あいさつ 栗原部会長 以下進行

3 協議事項

（1）指摘事項及びその対応方針について 事務局説明

・資料に沿って説明（記録省略）

10:00

吉田副部会長）資料の最後の目指すべき姿は、どこの部分か

事務局）基本構想の21ページである。

事務局）基本構想の資料の上から4番目、基本目標1－2。安定化を図るとともに～の後
段に、「食品、環境・エネルギー関連企業などの企業誘致を推進します。」を入れる。

栗原部会長）21ページの3から2に移動ということか

事務局）そうです。

福井委員）「農林業を起点とした」を、「農林水産業を起点とした」、にするのか。総合計画
の条例では、「農林業等の振興に関する事項」になっているが。ここだけの修正か、全部
の修正か。

事務局）整合性をとるように、全部修正する。

事務局）施策名も農林水産業に修正する。（目次も含めて）

福井委員）運営規則は変えなくてもよいか。産業振興部会の分掌次項は、「ア 農林業等の
振興に関する事項」となっているが。

事務局）「エ その他産業振興に関連する事項」で読みたい。

福井委員）了解した。

10:10

- ・数値目標について、事務局説明。
- ・これまでの総合計画のつくりとは若干異なる。ビジョンとして作成。指標のとらえ方は、各施策の目指すべき姿を設定し、取組方針の動きではなく、全体の動きを把握するもの。経年変化で目指すべき姿に向かっているかを見たい。アンケートで市民の満足度を押さえていきたい。他の部会でもあったが、毎年とれるような固定した数値を指標としたい。
- ・以下、資料に沿って説明。（説明内容省略）

10:23

栗原部会長）地元採用率、就業率について。現状の数値があつて、目標値は端数合わせの感じがする。目標設定の全体的な考え方について説明願いたい。

事務局）個別の設定になるが、5年先にどういう姿になっているかを考える中で、3割増とかを設定している。例えば、施策3の既存企業の増設は、5年間で毎年1社ということで、5社という考え方。

事務局）農業について。農業生産法人は、平成7年に5法人あった。今回10法人に伸びている。1年1法人を立ち上げていきたい。新規就農者は5名あった。単年で45名の相談があった。1年で5名ずつ増やす計画で、25名としている。担い手農家の集積率は、平成21年では、経営耕地面積2,811haに対し、177.3haが集積されている。平成27年には、経営耕地面積2,272haに対し、200haが集積されているという目標。23haくらいの伸びをこれまでの実績からみている。

栗原部会長）農業生産法人数を毎年1つ増やすという計画であるが、1割、2割増しとかではなく、今の集落営農という組織、全体をつかみながら目標を出していくという考え方が必要。時系列発想では、目標は出るが現状が下がることがある。全体像をつかんで、何割くらいをやるんだということにシフトすべき。現状の全体像をつかんでほしいということを言いたい。

福井委員）実数の表現のほうが、受け止めがはっきりする。農業生産法人の目標値を示されたが、具体化するには、法人化するメリットがないといけない。また、認定農業者になるメリットがない。なったらメリットがある形がないと増えていかない。率での評価の掲載であるが、率ではなく、具体的なものが必要。

事務局）いわれるとおりで、計画を立てる場合は、全体をみて、その中で法人化にしていって目標をたてないと、実態に沿った計画になっていかない。実際に施策を推進するうえでは、全体をみながら取り組んでいく。可能性のある集落組織があれば、目標数値を達成していても、集中的に取り組んでいくような取り組みが必要。

栗原部会長）毎年ひとつ増やせばいいというものではない。前年の何割増しでは目標が達成できない。

事務局) 率よりも実数でという意見もあった。地元採用率、就業率を人数で比較していくか、率で全体をつかむか、考え方がある。率でみた方がわかりやすいものは率で表現していきたい。

栗原部会長) 率でいうと端数あわせになる。

事務局) 就業率のことが出ていたが、目標値の60%にするには、毎年250人の就業者を増やしていく必要がある。250人×5年。そのためには、企業誘致件数、既存企業の増設件数を、毎年1社ずつ増やし、100人の就業を見込む。残り150人を商工や観光などその他の分野で増やしていく。

吉田副部会長) 一つに絞らなくてもいいのではないか。人数も記載しては。よりやる気も起きる。あと、地元採用率について。企業が採用する際に、市民だから採用するということはないのでは。湯梨浜町在住者を採用した場合はこの成果指標に反映されない。経済圏は同じだと思うが。

福井委員) この成果指標は、企業に対して地元の採用をお願いするというもの。市民の方は、就業率で見て取れる。地元の採用率は、市民の人にとってなじまないのでは。企業の方が地元の方の採用を優先して、という指標なのかなと思う。

事務局) 倉吉在住者を特別に採用して欲しいという意識はあるが、それに向けて努力をしていくわけではないし、おっしゃるように、どれだけの意味があるのか。

吉田副部会長) 市役所の職員でも倉吉市民ばかりではない。市外在住だからといってだめというわけではない。中部圏域は地元ととらえている。

福田委員) 倉吉市の計画の中での考え方なので、現状を全部入れると、作れなくなる。

吉田副部会長) 統計をとるならとっても良いが。

事務局) 補助金を出すなどの努力をするわけではないし、目標を50%としても、どれだけのことをやるということもない。この施策の目標は雇用を増やすことなので、なくともよい指標だと思う。

吉田副部会長) 雇用が増えればいい。

栗原部会長) 倉吉市に住んでいる人が、倉吉市の企業にという指標だと思う。

福井委員) 定住自立圏共生ビジョンと合わせてもよいのでは。整合性を図る意味でもわかりやすい。

事務局) ほかの部会でも関連について意見があった。合わせることは問題ない。

事務局) 地元採用率は、地元に住んで、地元で働くこと。人が増えていくことを考えるとあってもよいと思う。地元採用率を人数で表したらどうか。

吉田副部会長) 新規雇用の指標を一つ入れてはどうか。

事務局) 地元採用率について。地元採用率が上がれば上がるほど、企業の持つ力が付いているということではないか。

吉田副部会長) 地元採用率もあってもいいと思うが、新規雇用を指標に入れては。

福田委員) 企業の新規雇用率。

事務局) 検討します。

事務局) 地元の人が地元で生活していただきたい、“暮らし良し”といった中での施策設定である。また、産業振興ビジョンの中での目標値が、雇用自立度を見ていこうとしている。市内に住んでいる人が、市内でどれだけ働いているか、を指標にしている。中部は圏域という考えもあるが、市の計画ではそのような位置づけである。また、個別計画とも整合をとって記載したい。

栗原部会長) 新規雇用の指標を入れるということで。

事務局) 検討したい。

栗原副部長) 農業のパーセント。目標の根拠はどうか。農地（分母）が減れば、数値のマジックで変わってくる。具体的な数値をあげたほうがわかりやすいと思う。

福井委員) 経営耕地面積が分母になるが、どういう推移になるのか。

事務局) 農業従事者 3,239 に対して 163 の担い手。27 年度は、2,775 と 160。認定農業者の経営規模を拡大、集中する。担い手農地の面積も、2,811ha に対して 177.3ha で 6.3%。27 年度は、経営耕地面積が 2,272ha に減るという想定、減る農地に対して、200ha の 8.8% の目標を出している。新規就農は、毎年 5 人増やすということで実数にしている。パーセンテージであげにくいもの。認定農業者の経営の中を充実していくという思い。

栗原部会長) わかりました。パーセンテージだけでなく、分子、分母を並べておくとうわかりやすい。

藤井忠篤委員) 起業者数について。現状 8 件で 40 件が目標。商工会議所へ起業相談し、実際に起業した件数であるが、銀行から聞いたほうが具体的な数値が出る。また、空き店舗を活用した具体的な助成があるのか。

事務局) はじめに起業のことだが、数字がつかみにくい。商工会議所を通して相談にいられて、融資制度を使って起業したという数字しかつかめない。次に、空き店舗を活用した助成については、チャレンジショップの卒業生が新しいところを賃貸でやる場合に補助制度がある。賃貸だけでなく、初期投資の補助も検討しているところ。

福田委員) 観光コンベンションについての開催件数について。コンベンション規模の基準はどうか。中国大会から上とか。

事務局) コンベンションを推進するための補助制度を作った。補助制度に乗るコンベンションを想定している。米子のコンベンションビューローは 200 人以上が対象。それは難しいので、もう少し下げて、倉吉市独自の補助制度をつくった。

福井委員) 少人数であっても、窓口を通し、宿泊を伴いということをコンベンションとみていると思う。少人数からでも対象では。

事務局) 倉吉市の補助制度に乗っかる以上の、という意味。宿泊人数によって、補助金を出す。

福田委員) 全国大会を誘致してきたので、よろしく願いたい。質が高く人数の少ない

ものもあるし、多くの人数がくることもある。

吉田副部長) 数値がとれる範囲で目標値が設定してあるが、これでいいのかなと思う。
売上単価とかは、とれるのが赤瓦だけなので、ということ。市民全体が市の目標に向かって協力できることはそういうところだと思う。月々の売上単価を報告するとか。赤瓦だけでなく、何店舗か、統計をとってはどうか。起業者数も、商工会議所に相談した人しか統計がとれないのも残念だし不安。相談しなくても起業している人が多くある。商工会議所としてもできるかぎり加入の働きかけはする。小さいところは、どこかで手をつなぐしくみ、行政と一緒にやってやれるしくみがほしい。ここに盛り込むことではないが、数字をとるときでも、これだけしかとれないのかなと思う。もう少し正しい地域の状況を把握するべきではないか。

藤井忠篤委員) 創業される場合、開業資金のため、金融から融資を受ける。数くらいは教えてくれるのでは。金融部会で。

吉田副部長) 赤瓦の売上だけで、目標が達成というのもどうかと思う。

福田委員) 駅前の店などは入れないか。駅舎館や長生堂。1つのお店では弱い。

吉田委員) お願いしたら、協力してくれると思う。

福田委員) 全部は大変なので、いくつか。

事務局) 検討したい。

栗原部会長) 目標を修正することはあるのか。

事務局) 目標の指標は有効なものがあれば追加していきたい。見直しも実施計画を3年としているので、内容の見直しをしていきたい。

栗原部会長) 検証するときに、算定基礎、目標、項目を変更していくのか。

事務局) はい。

栗原部会長) 行政と各団体の連携強調は含まれていると思うが、強調してもらいたい。

栗原部会長) 農商工連携のところの現状値の3品は何か。

事務局) サンパックスのジュース、JAの2品。ワイン、ドリンク・・・。

事務局) 去年開発されたものが3品ある。20品を5年間で。

福田委員) 目標値がトータルになるため、現状値の単年数字と整合性がとれないが。

事務局) 22年までに累計3品ということはない。

栗原部会長) それだと、27年までに累計20品ということか。

藤井由美子委員) 農商工連携組織とは。

事務局) 新産業共通基盤、産業クラスターとか。そこしか把握できない。

藤井由美子委員) 商品登録するのか。

事務局) 商品登録までもつてくための指導、アドバイスをしたい。

栗原部会長) 1年に4品ではあんまり発展しないのでは。

福田委員) 集落活動でつくるのは入らないのか。

栗原部会長) 女性会とかで作るもの。

事務局) もちろん推進するが、カウントするのは新産業共通基盤、クラスターで開発されたもの。

栗原部会長) これまでのものが数十あって、目標が数十というほうがわかりやすい。検討してください。

事務局) 5年間で20品。4×5年で考えている。

福井委員) 目標値の根拠を明確にしてほしい。

事務局) 根拠は、平成22年に3品あり、がんばって4品にして5年間したい。

栗原部会長) 現状値は単年度で、目標値は累計になっている。わかりにくい。

事務局) 表現を検討したい。

栗原部会長) その他、意見はないか。

事務局) 最後に2点だけ、構想を検討していただきたいところがある。資料3ページ。マ
スは固体名称ではないので、ニジマスに変えたほうが適当。大々的に出荷している。

栗原部会長) はい。その他ありますか。

事務局) 指標の考え方を統一しなければならない。単年と累計がすべての施策に影響する。

福井委員) ほかの部会も関連するので、総合部会で話し合わないといけないのでは。総合部会で調整しないと。

栗原部会長) 地元採用率や就業率はどうか。

事務局) 累計数値がとれるかどうか。

栗原部会長) 統一はできないということか。

事務局) はい。表現方法として、年4品とか。

栗原部会長) 誤解のないように。総合部会で話をしてほしい。

福井委員) 総合部会までに資料を見ておきたいが、よいか。

栗原部会長) 今日の結果を郵送してもらい、意見がある人は言ってもらうこととしたい。

事務局) 意見のまとめ、指標のまとめを総合部会にかける。意見があつたら、ペーパーを使ってほしい。

栗原部会長) 最終を郵送で確認していただきたい。今回で最終回だが、集中審議をしていただいた。総合部会、審議会が残っているが、内容の濃い計画となるように。いかに実践されるかなので、努力をお願いし、閉会したい。

11:50 閉会